危うくなり，急拠，討論室を隣室にもうけるといった有様であった。このような状況は3ケ日の会期を通じて，ほぼいつも見受けられ，また討論室でも活発な意見交換が行なわれていた。熱測定討論会の雰囲気が最近沈滞気味であった(?)だけに私には嬉しい誤算であった。今迄の討論会はどちらかと言うと手段・方法に主眼が集まり，測定結果から得られる種々の情報についての討論は少し欠けていたと思えるだけに新鮮さが目立った。このような印象をもったのも最近の討論会参加者の顔ぶれが固定化され，討論会がマンネリ化していたのでないかと考えられる。その意味で今回の合同シンポジウムの成功は今後の討論会の開催方法についての一つの指針となったと言える。さらに私見を述べさせていただけるなら「熱測定討論会」の洗直しの時期にきているのでないだろうか。発足以来17回を数え，定着化した。そして熱測定の重要性についても評価されるようになった。これは歴代会長を始め諸先輩方々の大変な努力の結果である。この成果の上に立ち，さらに発表するのにはどうすればよいか考えねばならない。

まず「熱測定討論会」の定義を考えるなら，「熱測定」に限らず，国際化学熱力学学会のように熱力学的量に関する研究が発表対象になるように拡大解釈したらどうだろうか。(このことは昨年の討論会の印象記でも書いたが，今回の合同シンポジウムを終えて益々その考えを深めた。)

終りに，合同シンポジウムが盛況裏に終ったのも，大瀧先生の御尽力の結果であり，深く感謝したい。また，私の主張を心よく御承知下さり，側面からご協力下さった運営委員会，幹事会，事務局の方々に深謝致します。

このレポートを書いている時，分子研藤山常毅教授死去の報に接した。一週間前，合同シンポジウムで元気に研究発表されていただけに信じられない思いである。分子集団を研究するグループにとって秀れたリーダーを失ったことは非常な痛手である。つゝしんで哀悼の意を表したい。合掌。

(合同シンポジウム世話人：村上幸夫)

第18回熱測定討論会(昭和57年度)

第18回熱測定討論会は下記により開催されます。例年より1カ月早くなりますのでご注意下さい。

記

期　日　昭和57年10月6日(水)，7日(木)，8日(金)

会　場　東北大学選鉱精錬研究所(仙台市片平2-1-1)

講演申込締切日　7月5日(月)

「熱測定」9(2)に会告，その他「化学と工業」5月号掲載

講演要旨原稿締切日　8月20日(金)